

知事記者会見の概要

日 時：令和7年10月22日（水） 10:00～10:25

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「“世界はとなり” やまがたフェス」の開催について

代表質問

- (1) 新首相への期待について

フリー質問

- (1) 鈴木憲和衆議院議員の農林水産大臣就任について
- (2) 衆議院議員の定数削減について
- (3) 鈴木大臣に対する農林水産分野における期待について
- (4) 高市内閣における「外国人との秩序ある共生社会推進担当大臣」の新設について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

高市早苗衆議院議員が、内閣総理大臣に選出されました。誠におめでとうございます。

女性として初の総理大臣でありまして、本当に喜ばしく思っております。歴史的快挙だというふうに思っております。

高市総理は、総務大臣を長く務められました。地方創生のさらなる推進に向けて、現場に近い地方自治体の意見を反映した政策に積極的に取り組んでいただきたいと考えております。

また、本県選出の鈴木憲和衆議院議員が農林水産大臣に御就任されました。誠に喜ばしいことであります。心からお祝い申し上げます。

鈴木大臣には、本県を含む、農林水産業の振興・活性化に向けて、これまでの豊富なご経験を活かし、そのお力を存分に発揮されますことを期待しております。

現在、米不足や長引く米価高騰など、日本の主食であります「米」を巡って課題が山積しております。

このような大変な状況の中だからこそ、農業現場を知っている鈴木大臣が、持続可能な米作り、日本農業の発展に向けて、しっかりと農政を前に進めていただきますことを心から願っているところであります。

それから、技能五輪とアビリンピックについて申し上げます。

愛知県を主会場に、「第 63 回技能五輪全国大会」が今月 17 日から 20 日まで開催されました。本県からは、西洋料理などの 12 職種に 19 名が参加し、金賞 1 名、銅賞 1 名、敢闘賞 2 名の合わせて 4 名が入賞しました。本県選手の金賞獲得は 5 年連続であります。

金賞は、西洋料理で「株式会社ジョイン パレスグランデール」の鈴木花歩さん、銅賞は、洋裁で「株式会社山谷洋装 山形工場」の國谷葉央さん、敢闘賞は、西洋料理で「仙台ターミナルビル株式会社ホテルメトロポリタン山形」の吉原愛莉さんと、日本料理で「株式会社旅館古窯」の宇野菜奈さんでございます。本当におめでとうございます。

また、同じく愛知県を会場に、「第 45 回全国障害者技能競技大会」(通称: 全国アビリンピック) が今月 17 日から 19 日まで開催されました。本県からは、ワードプロセッサなどの 6 種目に 6 名が参加して、惜しくも入賞には届かなかったんですけども、皆さんが日頃の訓練の成果を存分に発揮して、全国の舞台で堂々と競技されたと伺っております。

本県選手団の活躍は、本県の技能レベルの高さを示すとともに、地域産業の発展および障がい者の活躍と雇用の促進につながるものでありますので、県全体の活力になると思っております。今後も、選手団の皆さんのより一層のご活躍を心から期待申し上げます。

☆発表事項

知事

発表が1点だけございます。

「“世界はとなり”やまがたフェス」の開催について申し上げます。

「“世界はとなり”やまがたフェス」の開催、これについてはですね、幅広い世代での多文化共生に対する理解の浸透を図るとともに、若い世代が海外に向けて一歩を踏み出す後押しをするため、10月25日、今週の土曜日に、山形市の「やまぎん県民ホールイベント広場」で初めて開催をいたします。

このフェスでは、「世界はすぐそば。出会えば、ちがいは楽しさになる」をテーマとして、留学や海外での勤務経験など、異なる文化の中で生活した体験から得られた気づきや学びなどを紹介していただくトーク企画や、各国の伝統的な楽器の演奏や踊りの披露などのステージイベントを予定しております。

また、外国人留学生や国際交流員等と一緒にやる各国のゲームや小物づくりなど、さまざまな体験イベントを企画しております。そのほか、本県の郷土料理をはじめ、世界各国の食を楽しめる飲食ブースや民芸品、また、食料品の販売コーナーも設置して、世界を身近に感じていただけるイベントとなっております。

本県で暮らす日本人の皆さんも外国人の皆さんも、これらの出展ブースやステージイベントを通して多様な文化に触れ、一緒に楽しみながら交流を深めていただきたいと思います。思っております。

子どもから大人まで気軽に参加できるイベントでありますので、多くの県民の皆様、住民の皆様から足を運んでいただきたいというふうに思っております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

産経新聞の菊池です。おはようございます。よろしくお願いします。

さっきの知事のお言葉がですね、事前通告のほぼ答えになっちゃったんで、大変申し訳ないんですけども、少しダブリ感があると思うんですが。

昨日、夜にですね、高市政権、内閣が誕生しまして、(午後)10時からの記者会見で方向性が示されてですね、高市内閣としての枠が鮮明になってきていると思うんですけども、あらためて高市内閣、政権に期待することをお願いします。

知事

はい。では、申し上げます。

高市早苗自民党総裁が、内閣総理大臣に選出されましたこと、まずもって、本当におめでとうございます。繰り返しになりますけども、女性として初の総理大臣ということでありま

して、歴史的な快挙だというふうに思っております。

現在、我が国は、関税も含めた国際情勢への対応や、長引く物価高騰、少子高齢化を伴う人口減少、また、自然災害の頻発・激甚化、医療・福祉分野での厳しい経営状況など、国内外に課題が山積している状況であります。

高市総理には、こうした課題に迅速にご対応いただくとともに、総務大臣や経済安全保障担当大臣などを務められたご経験を活かして、地方創生のより一層の推進や、地域の実情を反映した施策について、積極的に推し進めていただくことを心から期待しております。

なお、高市総理誕生をきっかけに、国民の人口の半分を占めている女性活躍の推進についても、期待をしているところであります。

私が思いますには、高市総理が日々ご活躍される、その姿を目の当たりにして、人口の半分を占める女性たちがですね、明るい希望を持てるというふうに思っておりますし、記者会見で、私もちらっと 10 時からちょっと拝見しておりましたが、本当に力強く語っておられましたので、人口の約半分の占める男性の皆さんにとっても、明るい展望が開かれたというふうにお感じになったのではないかなというふうに思っております。最近は本当に「高市旋風」というのが吹き荒れているのかなということで、このまましっかりとご活躍いただきたいというふうに願っております。

☆フリー質問

記者

おはようございます。

鈴木大臣の件でお聞きできればと思います。鈴木さんが農相になられて、また JA グループの方に目を移しますと折原（敬一）さんが JA 全農で経営管理委員会長ということで、これもトップになっていて、いわゆる鈴木大臣とともに農政、あと農業団体、いずれもトップが山形県関係者ということになりました。これに関する知事の受け止めがあればと思います。

知事

はい、本当にすごいことだと思いますね。農林水産大臣だけでなく、JA の全国のトップ、このお二人がですね、本県出身の方であるということで本当に誇らしく思っておりますし、日本の農業というものを、今たくさんの困難な課題が山積する状況ではあるんですけれども、お二人がタッグを組んで、しっかりと前を向いて、農政を前に進めていただければというふうに思っております。

例えば、一つは、米についての米価をめぐって、また昨年ぐらい、本当に「令和の米騒動」とも言われるような状況が続いてきて、そしていまだその混乱は収まっていないような状況でありまして、これから米価がどうなっていくのか、生産者の側に立った視点も持ってですね、消費者、生産者、双方の視点というものをしっかり持って、双方が納得できるような、そして持続可能な米作りができる、そういう農政というものを見直すチャンスだというふう

にも思っておりますので、二人のトップには、協力し合って連携し合って、日本の農業が発展するように希望を持って生産者が生産できるようにということを前に進めていただくようにというふうに、私は心から願っております。

本当にお二人が本県出身者ということは、素晴らしいことだと思っております。責任も重いポストでありますけれども、それだからこそしっかりと困難な状況を乗り越えていただきたいなというふうに思っております。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしくお願いいたします。

自民党と日本維新の会の連立の条件としまして、衆院の定数の 1 割減っていうところがあったと思うんですけれども、これに関しましては、地方の声が届きにくいという声も言われている中で、東北ブロックっていうところでも人口減というところでは、影響があるかもしれないというところなんですけれども、こちらに関しましての知事の所感っていうところをお伺いできればと思います。

知事

はい、この度の連立政権発足にあたり、身を切る改革として両党で合意されたものというふうに認識をしております。我が国は人口減少が最大の課題であって、そうした状況下において、行革の視点からの定数削減ということは理解するんですけれども、地方の声が国政に届きにくくなるということは、なんとしても避けていただきたいと、そういうことは望ましくないというふうに思っております。

そうですね、私の立場としては、やはり地方の声は届きやすくしてもらいたいと、むしろですね、そのように願っておりますので、単純に人口だけで考えてよろしいのかなというふうに思っております。そういうふうに地方の声が国政にしっかり届くような仕組みを考えていただきたいというふうに思っています。

記者

テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願いいたします。

すいません、私からも鈴木憲和さんについてお聞きしたかったのですが、知事、冒頭のお話の中にもあり、大変恐縮なのですが、やはり農業県である山形県から、農水大臣として鈴木憲和さんが選出されたことが、まずすごく一番意義のあると言いますか、大きいことなのかなと思うんですけれども、改めて農業県から鈴木さんが選出されたことについての、あらためて知事の所感をお伺いできないでしょうか。

知事

はい、そうですね、申し上げたことではあるんですけども、やはり農業、食糧供給県であります、この山形県から農水大臣が誕生したと、本県出身の農水大臣がですね、13年ぶりだと聞いておりますけれども、やはりそこは現場を知る方が農水大臣になったということは、非常に私は望ましいことだというふうに思っております。

消費者の立場も分かり、また、生産者の立場も分かると。本県はもちろん、全国の農業現場に足を運んでいらっしゃるというふうにも聞いておりますので、また海外の現場もですね、ご視察されたというふうにも聞いておりますので、やはり本当に国際的な視野も持ち、また全国的な視野も持って、そして消費者、生産者双方の声というものもお聞きになって、日本の農業がですね、持続可能な農業となるようにしっかりと働いてもらいたいと言うとあれですけども、汗を流していただきたいというか、本当に能力のある方だと思っておりますので、これまでのご経験もね、踏まえて、お力を存分に発揮してご活躍いただきたいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。知事の期待するところが大きいかなと思ったのですが、その中で、やはりスーパーですとか店頭を見ると、もう早速新米のほうも並び始めてきました。やはりお米に関してはどうしてもスピード感が求められるのかなと思うのですが、知事が思う鈴木さんへ、国に対して一番先にまず取り掛かってほしいこととしてはどんなことを求めたいと思いますか。

知事

そうですね、やはり農産物は全部大事なもののなんですね。国民の、そして県民の命の糧になるものでありますので、農林水産物は全部大事なのでありますけれども、やはり日本人の主食はお米であります。そのお米の価格、米価がどうなっていくのかというのは大変心配であります。生産者の方も大変心配しておられます。高いということは目の前は非常にありがたいことでもあるけれども、それがコメ離れにつながっていくというのは、それは避けたい、望ましくないというふうに生産者の方もおっしゃっておられますので、やはり消費者の皆さん、また生産者の皆さん双方にとって適正な価格というようなことは、これは1つの県だけでできることではございませんので、全国的な問題でありますので、しっかりと政府に、鈴木大臣にリーダーシップを取っていただいて、そこをですね、適正価格になるようにお考えいただければなというふうに思っております。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

引き続き高市新政権に関する質問なんですけれども、今回、高市内閣では新たな大臣とし

て、「外国人との秩序ある共生社会推進担当大臣」というポジションが新たに設けられました。この「秩序ある共生社会」というのはおそらくキーワードなんだろうと思うんですけども、高市さんは奈良の方ということもあって、鹿の問題とかですね、外国人との国内におけるトラブルですとか、そういった点をですね、念頭に置かれてというような部分での担当大臣設置ということだと思うんですけども、ただ、県内ではですね、今年度の施策の中でも外国人との共生というのはひとつ大きなキーワードであるかと思ひまして、外国人材の活用ですとか、まさに推進をしている途中の段階なのかなと思います。国の新たな「秩序ある共生社会」というもののメッセージと県内での「外国人共生」というところで、対立するわけではないと思うんですけども、兼ね合いが難しくなってくるような部分があるのではないかなという懸念を覚えたのですが、知事としてはご所感はいかがでしょう。

知事

はい。そうですね、異文化共生社会ということを県は前年度から掲げておりまして、というのはやはり働き手、人手不足というようなことが長らく続いてですね、これから担い手、働き手が減少と、生産年齢人口がどんどんと激減していくという状況にあつて、経済を縮小させないというようなことのためにはですね、やはり外国人材の活用といいますか、外国人材にも活躍していただくというのが大変大事だと思っております。

既に本県の産業界でもそれはもう始まっております。10年以上前から始まっているんですけど、年々その外国人の活躍がですね、増えておりまして、もう1万人を超えました。これからも増えていくんだろうと思っております。

それで私が掲げたのはですね、やはり県民の皆さんとの共生といいますか、コミュニケーション、そういったことが大事なというふうに思ひまして、また外国人の方も働く職場だけではなくて生活圏のところでもね、やはり楽しく過ごせるようにというか、県民の皆さんももっと外国人の皆さんとコミュニケーションを取って仲良く暮らせるようにということで「共生社会」というふうに申し上げているんですけど、ただ、一面にはやはり犯罪が多くなるのではないかとかね、ゴミの分別が課題だとかね、さまざまな声もお聞きしているところでもあります。

ですから「秩序ある」というような視点ですね、「秩序ある共生社会」というようなこともやはり日本人、そして外国人の双方にとって、やはり安全・安心な社会というものを作っていく上ではなんら矛盾するものではなく、やはりそういった視点も持ちつつ共生社会を進めていくというのは大事なことではないかというふうに私は捉えております。